

年末年始どりに適し、レタスビッグベイン病抵抗性を持つ レタス新品種「ウインターパワー」

土壌伝染性のウイルス病であるレタスビッグベイン病は、発病するとレタスの葉脈付近が退緑化し、レタスの球は小さくなり、収量が低下します。一度発病すると根絶が困難な難防除病害ですので、本病が多発しやすい国内の冬春作レタス産地では、大きな問題となっています。本欄でも平成 21 年 7 月に厳寒期に栽培できるビッグベイン病抵抗性品種として「フユヒカリ」を紹介 (No.1628) したところですが、近年の発生時期は年末年始にも拡大してきています。(独) 農研機構近畿中国四国農業研究センターでは、兵庫県、香川県の試験場と共同研究を行い、年末年始どりに適した本病抵抗性品種を育成しましたので、その成果の概要を紹介いたします。

☆ 技術の概要

1. 開発した品種の「ウインターパワー」(写真 1) は、近年、発病時期が早まっているレタスビッグベイン病に対応するために育成した年末年始どり(12 月下旬から 1 月中旬に収穫)の抵抗性品種です。「フユヒカリ」同様、アメリカ合衆国農務省育成の抵抗性品種「トンプソン」と高品質のビッグベイン病罹病性品種「シスコ」を交配し、その後代について選抜と採種を繰り返し、育成されました。
2. 「ウインターパワー」は、レタスビッグベイン病にかかりにくいだけでなく、かかっても発病程度が非常に軽いのが特徴です。また、大玉率、秀品率ともに既存の抵抗性品種と同等又はやや高く、収量性に優れます。
3. 10 月上旬から中旬にかけて定植、12 月下旬～1 月中旬に収穫する年末年始どりに適し、この時期の栽培では高品質なレタスが収穫できます。厳寒どりで球は小ぶりになります。

表 1 「ウインターパワー」の形態・収量特性

品 種 名	形態・収量特性				
	球重(g)	球径指数	大玉率(%)	秀品率(%)	球発病度
ウインターパワー	472	0.98	35.4	75.0	0.44
ロジック(抵抗性)	459	0.9	31.3	62.5	1.08
シスコ(罹病性)	335	0.83	0	72.9	1.4
フユヒカリ(抵抗性)	471	1.04	29.2	47.9	0.69

注 1) レタスビッグベイン病激発圃場での年末年始どり栽培の結果。

2) フユヒカリは厳寒どりに適した品種で、年末年始どりで品質が劣る。



写真1 「ウインターパワー」の収穫物の形状



発病せず正常に結球している「ウインターパワー」



発病し、結球不良になっている既存抵抗性品種「ジョルト」

写真2 レタスビッグベイン病発生圃場での発病状況

☆ 活用面での留意点

1. トンネル被覆をした場合にはトンネル内温度の上昇により球形が乱れる場合があります。
2. 「ウインターパワー」は、本年 3 月 16 日に品種登録出願公表されました。今後、利用許諾契約を締結した民間種苗会社を通じて種子販売される予定です。詳しいことは、(独) 農研機構近畿中国四国農業研究センター作物機能開発研究領域(電話 0877-63-8130)へお問い合わせください。(日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 袴田勝弘)